令和３年(2021)　丑年に贈る

『 牛 』　高村光太郎作

1913年(大正2年)12月７日付

＊下線部分を2学期後半開始式の校長講話で紹介しました。読みやすいように現代の仮名遣いにしてあります。

牛はのろのろと歩く
牛は野でも山でも道でも川でも
自分の行きたいところへは
まっすぐに行く
牛はただでは飛ばない、ただでは躍らない
がちり、がちりと　牛は砂を堀り土を掘り石を
はねとばし
やっぱり牛はのろのろと歩く
牛は急ぐ事をしない
牛は力一ぱいに地面を頼って行く
自分を載せている自然の力を信じきって行く
ひと足、ひと足、牛は自分の道を味わって行く
ふみ出す足は必然だ
うわの空の事でない
是でも非でも
出さないではいられない足を出す
牛だ
出したが最後
牛は後へはかえらない
足が地面へめり込んでもかえらない
そしてやっぱり牛はのろのろと歩く
牛はがむしゃらではない
けれどもかなりがむしゃらだ
邪魔なものは二本の角にひっかける
牛は非道をしない
牛はただ為たい事をする
自然に為たくなる事をする
牛は判断をしない
けれども牛は正直だ
牛は為たくなって為た事に後悔をしない
牛の為た事は牛の自身を強くする
それでもやっぱり牛はのろのろと歩く
何処までも歩く
自然を信じ切って
自然に身を任して
がちり、がちりと自然につっ込み食い込んで
遅れても、先になっても
自分の道を自分で行く
雲にものらない
雨をも呼ばない
水の上をも泳がない
堅い大地に蹄をつけて
牛は平凡な大地を行く
やくざな架空の地面にだまされない
ひとをうらやましいとも思わない
牛は自分の孤独をちゃんと知っている
牛は食べたものを又食べながら
じっと淋しさをふんごたえ
さらに深く、さらに大きい孤独の中にはいって
行く
牛はもうと啼いて
その時自然によびかける
自然はやっぱりもうとこたえる
牛はそれにあやされる
そしてやっぱり牛はのろのろと歩く
牛は馬鹿に大まかで、かなり無器用だ
思い立ってもやるまでが大変だ
やりはじめてもきびきびとは行かない
けれども牛は馬鹿に敏感だ
三里さきのけだものの声をききわける
最善最美を直覚する
未来を明らかに予感する
見よ
牛の眼は叡知にかがやく
その眼は自然の形と魂とを一緒に見ぬく
形のおもちゃを喜ばない
魂の影に魅せられない
うるおいのあるやさしい牛の眼
まつ毛の長い黒眼がちの牛の眼
永遠を日常によび生かす牛の眼
牛の眼は聖者の眼だ
牛は自然をその通りにじっと見る
見つめる
きょろきょろときょろつかない
眼に角も立てない
牛が自然を見る事は自然が牛を見る事だ
外を見ると一緒に内が見え
内を見ると一緒に外が見える
これは牛にとっての努力じゃない
牛にとっての当然だ
そしてやっぱり牛はのろのろと歩く
牛は随分強情だ
けれどもむやみとは争わない
争わなければならない時しか争わない
ふだんはすべてをただ聞いている
そして自分の仕事をしている
生命をくだいて力を出す
牛の力は強い
しかし牛の力は潜力だ
弾機ではない
ねじだ
坂に車を引き上げるねじの力だ
牛が邪魔者をつっかけてはねとばす時は
きれ離れのいい手際だが
牛の力はねばりっこい
邪悪な闘牛者の卑劣な刃にかかる時でも
十本二十本の鎗を総身に立てられて
よろけながらもつっかける
つっかける
牛の力はこうも悲壮だ
牛の力はこうも偉大だ
それでもやっぱり牛はのろのろと歩く
何処までも歩く
歩きながら草を食う
大地から生えている草を食う
そして大きな体を肥やす
利口で優しい眼と
なつこい舌と
かたい爪と
厳粛な二本の角と
愛情に満ちた啼声と
すばらしい筋肉と
正直な涎を持った大きな牛
牛はのろのろと歩く
牛は大地をふみしめて歩く
牛は平凡な大地を歩く　　（終）

神原小のみなさんへ

長い詩で難しい漢字もありますが辞書を引きながら読み進めてくださいね。

さて、丑年にちなんで、みなさんは次のことも知っておくといいですね。

沖縄は畜産の盛んな地区です。その中でも特に県産和牛の子牛の取引頭数は全国でも4位と常に上位であり、その多くは、県外へ出荷され、その土地で成長し、その土地の名前の牛(松阪牛とか)になります。

【平成29年度　子牛取引頭数】

八重山 …	8,994頭
宮　古 …	5,568頭
島　尻 …	5,220頭
国　頭 …	4,699頭
合　計 …	24,481頭
（県外へ	21,335頭　すごい！）

昨年は、コロナの影響で出荷が減少した県産和牛がみなさんの給食にもでてきましたね。とても美味しい牛肉だとみんな喜んでいました。そこには農家のみなさんやそれを支える多くの方が、一生懸命に育てて、販売までしているのです。本当に感謝です。

そんな美味しい牛は、人間のために生まれ、そして食されます。牛の命のありがたさを強く感じますね。また、牛も動物なので、みなさんと同じように性格もあるそうです。この詩のようにいろいろなことも考えているのかも知れません。そして繊細な心、本物を見抜く目、力強い優しさも持ち合わせているかも知れませんね。

「うし」年、令和3年、2021年がひとりひとりの夢に向かって、しっかりとした力強い一歩を踏み出す年になることを期待しています！

2021/01/05　石垣校長より